

これから一般試験の本番を控え、高校三年生はそれに備えて緊張した毎日と思いますが、栄冠を勝ち取るべく、頑張ってください。入試勉強は、それが済んでしまえば直ぐに忘れ、役に立たない、というようなことが言われることもあります。私はそうは思いません。社会人として大きく成長する基盤ともなる必須のもので、試験に備えてしっかりと身に着けることで、次のステップでの成長の基礎固めともなるものです。朗報を待っております。

入学試験に関連し、入試改革の目玉であった英語の民間機関利用や国語、数学における記述式試験がとりあえず中止となりました。国の正式な審議機関において、その道の専門家による長時間の検討を経て決まったものが、土壇場で中止されたわけです。生徒の皆さんもそれに備えて準備を開始してきたことと思います。しかし、中止になったからといって、これまで新しい入試に備えて学んできたことが無駄になるわけではありません。新しい試験で評価しようとしていたものはこれからの時代を生き抜くのに必須の非常に大切な能力であり、その重要性はこれからも高まることはあっても不要になることはありません。引き続きその能力を高めるべく、努力を継続して行って頂きたいと思います。

皆さんには、今回のこの新しい入学試験についてのある意味では情けない顛末に至った背景について色々と考えて頂きたいと思います。中止の理由は当初から問題視されていたものです。誰もが気付かなかった問題ではないのです。中止の理由とされた問題が当初から指摘されていたにも関わらず、正式に実行することが決まってしまった今の日本の政治と行政の中に日本が抱える大きな問題があるのではと思わざるを得ません。大きな問題があるのに、そのまま物事が決まってしまう構造がある、ということは恐ろしいことであると言ってよいでしょう。科学技術そのものに関しては日本が先進国であることは間違いありませんが、社会制度全般で多くの点で後進性を抱えているのが日本なのです。

例えば日本の生産性が極めて低いことは色々なところで指摘されています。今のままでは、これからのシンギュラリティを迎える時代に日本は取り残される恐れさえあると思われます。皆さんの生徒会の運営においても、部活動のあり方にも、より効率的・効果的な取り組みが有り得るのではないかと思います。日本社会から日常の学校生活に至るまで、改めて皆さん一人一人が批判的な視点で考えてみる良い機会かなと思っております。次の日本を背負っていく皆さんに、より良い日本、さらには、より良い世界の構築に向けた広い視野を磨いて行って欲しいと思います。